

倒木被害

Q 昨冬の倒木被害についての対応と見解を伺う。

A 処理は木の所有者が対応するものと考えているが、施設の倒木被害への補助や、早急な復旧が必要な場合の例外的な撤去は市が行った。

三条庁舎地下食堂

Q 開店の経過と今後の対応について問う。

A 利用者の減少、原材料費、光熱水費、人件費などの高騰により継続が困難となった。新たな業者を募集することは考えていない。

白鳥賢議員の質問

ふるさと納税令和5年度の戦略について

Q 商品戦略、広報戦略、リピート戦略について説明を請う。

A 昨年実績は想像以上。今年は返礼品数増加、紹介ページ改善など地道に取り組む。割合はアウトドア用品58%、金物24%、農産物7%。農産物に伸び代があるとみている。使い道の周知は寄附の募り方と併せて検討する。

岡本康佑議員の質問

附帯決議について

Q 附帯決議の位置付けは。

A その意志を尊重するように努めるべきものと捉えている。内容を踏まえ市政運営に反映させる。

八木ヶ鼻温泉保養交流施設関連

Q 予算で経営支援金を多額に投入したと考える。民間企業のように貸付金などで経営が安定したら返してもいい形にした方が良くないか。

A 貸付金の考えはないが、経営支援金は渡しきりということではなく、利益が出た場合には一定額戻してもらうか総合的に勘案して検討する。

三条駅周辺の施設整備等

Q 三面アクセスと市の設置した跨線橋からの入場をJRに申し入れるべきでは。

A 指摘の通り利便性の向上が図られるが、多額の予算が掛かる。JR東日本と意見交換する機会を持ちたい。

Q 自転車駐輪場の屋根が付いていないのは、三条駅と北三条駅だけではないか。

リピート増の取り組みは、パンフレット作成、ページの作り込み等、地道な取り組みを進める。



空き家対策の進捗について

Q 特命空き家仕事人着任から1年、実績と課題を問う。

A 昨年度空き家バンク登録数81件(4倍)、活用に結び付いた成約件数は16件(横ばい)。その他の取り組みは空き家所有者へのアプローチ、発生予防につながる民事信託制度の紹介、活用セミナーや相談会の開催など。今後も総合的対策を検討する。

行政組織の適正化について

Q 現状の組織について問題意識を問う。

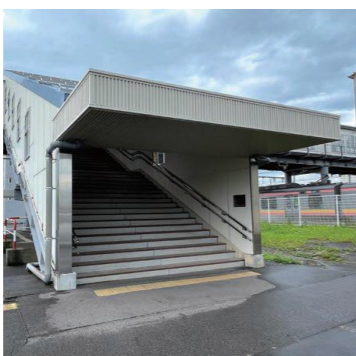
A 職員のリスク偏重による即応性の低下に対応するためには組織のアップデートが必要。上田副市長を統括に組織改革プロジェクトを開始する。市役所のビジョン、ミッションを明確に、職員の心理的安全性の確保、業務改善、DXを促進し、市民のための市役所を実現するため自立型組織を目指す。

る。乗降客数からみてもおかしい。駐輪場の屋根を付けるべきでは。

A 現在、屋根を設置している駐輪場の老朽化が激しい。各駅の在り方を検討したい。



三条駅には屋根付きの駐輪場がない



直接改札入場を望む声がある跨線橋

新救急拠点の整備運営事業者に厚生連が名乗りを上げた件について

Q 見解と厚生連に向けて取り組みはしないのか。

A 報道のみの情報しか持ち得ないが経営改善策の一つと推測している。特段、市として取り組みをすることは考えていない。

西村邦明議員の質問

寺町小路の進入口にある電信・信号柱の移設について

Q 常盤橋より北に進んだ正面の小路の道幅はアスファルト舗装道路を計測すると2.75メートルしかない。この狭い道路に約30センチの柱が大迷惑に立っている。柱の表面は高さ2メートルにわたり傷だらけ、車の塗料が付着して無残な姿をさらしている。さらに救急車がスムーズに入らず、難儀させている柱の撤去移設はできないか。

A 市道安全確保について、所有は東日本電信電話株式会社。そこに交通信号機が設置されている。移設は設置箇所も限られ、多額の費用が掛かるので慎重に調査の上、関係者と検討する。

どうする「いい湯らてい」

Q 日本中で多くの自治体運営の日帰り温泉施設が休館廃館しているが、八十里越開通に合わせ大規模改修は考えているのか。

A 新潟福島両県の観光歴史文化等情報発信、交流の拠点である施設をリニューアルし観光の目的地としての付加価値と魅力を高める具体的な方策を検討する。

竹山嘉一議員の質問

東三条駅ロータリーの根本的改修の必要性について

Q 送迎車による混雑はいまだ解消されていない。ロータリーと駐車場を面的につなぐ根本的改修が必要ではないか。

A ロータリーから駅前駐車場へのアクセス改善を進める形で検討する。

直江町一丁目交差点の激しい渋滞と危険性について

Q 旧一中側から国道に出る際の右折車両が1回に2〜3台しか右折できないことが要因で大渋滞だ。右折信号や時差式信号を設置する必要があるのではないか。

A 現状の道路環境では右折信号機や時差式信号機の設置は困難と警察より回答があった。

ソフト面の渋滞対策としての「時差出勤」について

Q 松本市では通勤時間を30分早めるだけで、所要時間が16分も短くなる例を挙げ、分かりやすいチラシを作り、市民へ時差出勤を呼び掛けている。

安心して子どもを産む体制づくり

Q 今年5月中旬、一産婦人科医院が産科受け付けを止めた。市民が感じている不安への対応は。

A 県央基幹病院の開院までの間に周知を確実にしようという県に要望し、三条市医師会と連携して不安の払拭に努める考えである。

岡田竜一議員の質問

市民の転出抑制と空き家対策について

Q 人口減少対策のうち転入促進事業、転出抑制事業は、それぞれどのようなものが行われているのか。転出抑制に重きを置いた事業をよりするべきではないのか。また、併せて現行の事業の広報をその利用者に確実に届けるべきではないか。見解を伺う。

A 空き家改修補助事業を市内在住者に行っている。あるいは空き家を含めた住宅購入時の費用の一部補助する結婚新生活支援事業については、2人のうち1人が市外からの転入でも対象になる。引き続き周知し今後適時見直ししていく。広報については、利用者層に合った周知方法で利用促進を図っている。

三条市も呼び掛けを行うべきでは。

A 時差出勤の導入は各企業の経営判断で、市からの呼び掛けは考えていない。



松本市の時差出勤呼び掛けチラシ

ミズベリッング三条の魅力拡大について

Q 見附市のイングリッシュガーデンでは施設協力金という形で箱を設置し利用者負担を求めている。年間300万円集まったそうだが、同じ仕組みを取り入れるべきでは。

A 大変有効な手法であり導入に向けて検討する。

